全ての取り組みは広島の未来を担う子どもたちのために

特集 学校における働き方改革を進めています

市教育委員会は、平成30年12月に、「学校における働き方改革推進プラン」を策定しました。教職員が子どもたちとしっかり向き合い、個に応じたきめ細かな指導が行えるよう、各学校で取り組みを進めています。

プラン策定から1年が経過した学校の様子を紹介します。

同プランについて詳しくは下の二次元コードから

問市教育委員会教育企画課（☎504-2496、FAX504-2509）

今、なぜ学校での働き方改革が必要なの？

これからは、変化の激しい時代に応える教育が求められます

小学校の英語教育やプログラミング教育などが新たに始まります。これらは社会の急激な変化が進む中で、子どもに次の時代を切り開くのに必要な力を育むためのものです。また、いじめ防止や特別支援教育の充実なども含め、教員には、さらなる教育活動への対応が求められます。

一方で、教員の長時間勤務による健康への影響が課題となっています

学校の教員は、学習指導だけでなく、生徒指導や部活動指導、保護者や地域との連携など業務が多岐にわたり、夜間や休日でも業務を行うことがあります。そのため、長時間勤務による健康への影響が課題となっており、勤務時間（1日当たり7時間45分）に応じたメリハリのある働き方に改めていく必要があります。

先生たちは

- 夜8時、9時でも家庭訪問に行かなければならないことがあります
- 土曜日や日曜日にも部活動の指導で出勤することがあります
- 子どもがいない夏休みにも、多くの研修を受講したり教材研究を行ったりしています

↓↓

このため、授業準備や教材研究の時間が十分に取れません

人材の確保という課題もあります

多くのベテラン教員が退職する時期を迎え、教育現場ではこれまで以上に新規採用者の確保が急務となっていますが、採用試験の競争倍率は年々低下傾向にあります（下表参照）。今後も高い志を持った多くの人が教員になりたいと思えるよう、魅力的な職場環境にすることが、子どもたちによりよい教育を続けていくことにつながります。

【広島県教員採用試験の倍率】

区分	平成20年度	平成27年度	令和2年度
小学校	5.4倍	2.7倍	1.6倍
中学校	14.8倍	4.9倍	2.9倍

よりよい教育のため教職員に「時間と心のゆとり」を

子どもたちによりよい教育をするためには、学校の教職員に「時間と心のゆとり」が必要です。ところが、休む暇もなく働いている教職員が少なくありません。そのため、保護者や地域の人々が「学校に何をやってもらうか」から、「学校に対して何ができるか」という意識を持ち、「学校のサポーター」になることが、大切だと思います。

学校業務改善アドバイザー※ 川島高之氏

※働き方改革を推進するため、文部科学省が全国に派遣する有識者

これからの学校、教職員の働き方

学校でこれまで教職員が担ってきた役割の見直しと業務の効率化を図り、限られた時間の中で子どもたちに向き合う時間を十分に確保します。また、教職員のメリハリのある働き方を進め、ワークライフバランスを実現し、心身ともに健康を保持します。

既に、このような取り組みを進めています

◎ 一定のルールに基づく時間外の電話対応

自動音声対応により、児童生徒の下校後に教員が授業準備などに専念できる時間を確保

（平日の自動音声による対応（各学校によって異なる）
・小学校：17:30～翌日7:30
・中学校：部活動終了時刻の1時間後～翌日7:30）

◎ 部活動の見直し

- 週当たり2日以上（平日1日以上、土・日曜日1日以上）の休養日を設定
- 1日の活動時間（平日2時間、休日3時間）の設定
- 朝練習は原則、行わない
- 夏休みなど長期休業中に休養期間（オフシーズン）の設定

◎ 部活動指導員の活用

専門的な知識を生かした技術的な指導や、大会への引率を行う（右参照）

◎ 定時退校日の実施

週1回以上の定時退校日を実施

役割分担しながら連携

佐伯区の中学校で**部活動指導員**として活動している夏原（なつはら）信幸さん（62・テニス部・右写真上）と松石公輔さん（38・バドミントン部・同下）。現場での技術指導や大会への引率を担当し、先生は練習計画や大会の登録などと役割分担しながら連携しています。2人は「自分の競技経験などを生かし、生徒にはのびのびと運動を楽しませたいですね」「忙しい先生たちの助けになれば」と話します。

◎ 学校閉庁日の実施

夏休みに学校閉庁日を実施

モデル校を中心にこのような取り組みも進めています

小・中学校それぞれ2校のモデル校で先導的な取り組みを進めています。今後、検証を重ね、順次、全ての学校に広げていきます。

◎ 外部人材（スクールサポートスタッフ）の活用

プリントの印刷・配布準備、簡単な入力作業などを行う（右参照）

◎ 学校閉庁日の拡大

冬休みなどにも学校閉庁日を拡大

忙しい先生のためにできることを

佐伯区の中学校で働く神鳥佳子（かんどりよしこ）さん（51・右写真）は、プリントの印刷やデータ入力など教員の事務作業を補助する**スクールサポートスタッフ**です。「これまで先生方は、授業の合間や放課後にプリンターの順番待ちをして印刷作業をされていたそうで、『助かるわ』ととても喜んでくれます。先生の多忙さを思うと同時にやりがいを感じます。先生が本来の仕事に専念できるよう頑張りたいです」と話します。

今後、このような取り組みを進めます

◎ 教員の業務量の管理などに関する方針の策定

教員が夜間や休日などの勤務時間外に業務を行う時間が、一定の上限（月45時間など）を超えないよう、教員の実際の業務時間を正確に把握し、業務の縮減や健康確保など、必要な対策を推進するための方針を策定する予定

学校における働き方改革に関する Q&A

Q. 働き方改革は、子どもたちにマイナスにならないの？

A. 教職員が子どもたち一人一人に今以上にきめ細かく接する時間が増えること、また、教職員が心身ともに健康であることはよりよい授業、よりよい指導につながり、教育の質を高めます

Q. 先生たちは、時間外勤務手当があるの？

A. 修学旅行の引率や休日の部活動指導などを除くと、教員には時間外勤務手当が支給される制度がありません。なお、正規の勤務時間は、午前8時半～午後5時（各学校によって異なる）です

学校を支える応援団

子どもたちに質の高い教育を進めていくためには、PTAや地域の皆さんなどさまざまな立場の人の力が欠かせません。

PTAとして

学校と保護者の橋渡しを

中区の小学校でPTA会長を務める中東直己（なかひがしなおき）さん（38・右写真）は「保護者の皆さんに学校の働き方改革への理解と協力をいただくため、学校と保護者との橋渡し役として話し合いを進めました。パトロールや見守りなどの協力をいただいています。

地域の親睦を図る催し『ふれあいん祭（さい）』（左写真）でも地域の絆を深めています」と話します。

ボランティアとして

学習支援ボランティア

安佐南区の中学校で生徒への学習支援ボランティアをしている教員志望の大学生・宮内優実（ゆみ）さん（3年生・右写真）。「生徒がパソコンで授業の予習や復習をする際の支援をしています。両親も教員で、自宅でも仕事をする姿を見てきました。先生方の一助となれるよう、生徒と一緒に勉強、という姿勢で頑張ります」と話します。

地域として

登下校の見守り

信号機がなく見通しの悪い通学路で事故が発生したのを機に、先生が見守りを始めたところ、「自分たちが代わろう」と手を挙げた東区の学校安全ガードボランティアの皆さん。平田悟（さとる）さん（67・上写真）は「子どもたちの安全を守るため、地域ができることは率先してやりたい」と話します。

読み聞かせボランティア

東区の小学校では、児童への読み聞かせに、高学年の児童有志がPTAの皆さんと共に取り組んだり（右写真）、地域の団体の皆さんが地元中学生制作の紙芝居を使って活動しています（下写真）。「忙しい先生に代わり、『ほっとけない精神』で自分たちができることを続けたい」と話します。

ゲストティーチャー

中川幸一（こういち）さん（79・右写真）は中区の小学校で芋ほり（下写真）や昔遊びなどの体験学習の講師をしたり、地域住民が学校に関わる機会をつくるコーディネーターをしています。「子どもたちのために、さまざまな経験や知識、技能を持った地域住民が学校に協力していければ」と話します。

地域ボランティア

安佐南区の中学校にある菜園は、地域の農家に指導を受けながら、生徒が作物を育て、食育などを学ぶ場です。農家の酒井義法（よしのり）さん（69・右写真上）、高橋正芳（まさよし）さん（74・同下）は「自分たちの専門的な知識が子どもたちのためになればうれしいですね」と話します。

他にもこのような取り組みがあります

- 地域ボランティアとして、授業時間や休み時間に子どもと積極的に関わっています
- 祭りの夜間パトロールを地域のみで行いました
- 土曜日や日曜日に開催していた地域行事への教員の参加について、負担にならないように見直しを行いました
- 夏休みの学校閉庁日の際に、学校花壇の植物への水やりを地域で行いました など

地域の皆さんは一番身近な学校の応援団です

学校運営は、保護者や地域の人から多くの協力を得て成り立っています。同時に、地域コミュニティの活動は、学校単位で行われることが多く、学校は地域づくりの拠点となっています。このように地域と学校は強く結びついています。

そのため、学校の子どもたちや先生たちが元気で、学校が活力ある場となることは、地域の活力にもつながると考えています。

教育委員会教育企画課 栗塚祐二 指導主事